

# なとセン登録団体紹介

## 朗読・読み聞かせサークルねむの木

もうすぐ設立 10 周年を迎える朗読・読み聞かせサークルねむの木。今回、初代代表の菊地悦子さん、2 代目代表の篠原由江さん、現代表の板橋みね子さんにお話しを伺いました。

読み聞かせを聞いた人が幸せな気持ちになれますように。本を好きになってくれますように。そんな想いが伝わってきます。



左から菊地さん、篠原さん、板橋さん

### ねむの木の誕生

尚絅学院大学の生涯学習センターで実施した市民大学講座「朗読・読み聞かせ養成講座」で共に学んだ仲間と、保育園や図書館で読み聞かせを行うようになりました。活動を始めるにあたり、仲間と出会った季節に大学に咲いていたねむの木を、サークル名にしました。

活動を始めて間もなく東日本大震災が発災。尚絅学院大学のボランティアセンターから、避難所でのボランティアを打診され、文化会館や中学校などに出向きました。ストレスケアとして大人の為の読み聞かせの他にも、歌や体操などを企画し積極的に活動したことで多くの繋がりができ、今でもその出会いを大切にしています。子供たちへの読み聞かせが心の成長に良い影響がある事はもちろんですが、この避難所での経験で多くのことを学び、技術の向上に努め、繋がり続ける大切さを会員と共有し、支え合いながら更なる発展を遂げられました。

### 読み聞かせが大切な理由

読み聞かせは、子ども一人ひとりが、絵本を通して登場人物の気持ちを想像し、喜怒哀楽を疑似体験します。様々な心の変化を知ることで感情が豊かになるのです。柳田邦男さんは(著書:絵本之力)「絵本は人生で3度読むべきもの」だと言っています。まず自分が子どもの時、次に自分が子育てをする時、そして自分が人生の後半に入った時。絵本の中には人生で一番大切なものは何かということがすでに書かれているのだ、というフレーズに感銘を受けたと3人の代表は語ります。

読むことを好きになり素敵な絵本に出会い、人

生の中に「絵本」があることの素晴らしさを知って欲しいと願う時、読み聞かせへの思いが強くなります。読み聞かせる側にとっても、多くの子どもたちとふれあい、学びを共有し個々の成長を見守り応援していくことができるのです。

### 一緒にやりませんか？

現在、尚絅学院大学から独立し保育所や幼稚園、老健施設、図書館などで定期的に活動しています。

団体活動以外にも会員個人がスキルを活かし居住地域などで行う読み聞かせの活動も増えていきます。それは、ねむの木の幹(団体)を中心に徐々に枝葉が広がっていく(地域のための活動)ように感じています。尚絅学院大学が、養成講座を通して参加者に地域のオピニオンリーダーとなり各地で活躍して欲しいという想いは、花開いてきたと言えます。

現在の会員数は 23 名。検討を重ねて絵本を選び、力を合わせて伝え方を工夫しやり切った時の「やったね！」という体験を、一緒に味わいませんか？未経験でも大丈夫です。お気軽にお声がけください！皆さんの入会をお待ちしています。



イベントの様子

### 問合せ

朗読・読み聞かせサークルねむの木

電話 070-5090-4040 (代表板橋)